

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075600090		
法人名	有限会社 三益		
事業所名	グループホーム 田苑		
所在地	宮若市福丸247番地1		
自己評価作成日	平成29年7月3日	評価結果確定日	平成29年7月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成29年7月15日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑内において外部の経験豊かな講師を招き職員研修会を開くと共に、相談したり助言を頂きながら苑の活動に役立てています。また苑外の研修も積極的に参加し、キャリアアップやケアの質の向上に努めています。苑での行事(ボランティアの方による演奏会・ひよっこ踊り・じゃらじゃら踊り・講師による月2回の健康体操・四季の花見ドライブ等)など地域の方やご家族などにも開放し高齢者介護やGHへの理解を深めていただけるよう取り組んでいます。ボランティアの方や職員の協力により、自家農園で野菜を栽培し、入居者様と一緒に収穫し、下ごしらえなどを行うことで会話も弾んでいます。入居者様・職員が同じ食事を一緒に食卓を囲んで楽しく食べられる為、食べ残しはほとんど見られません。食事やおやつは出来る限り全員一緒に食堂で楽しく召し上がって頂いています。昼間、入居者様同士の共同スペースで多く過ごされる事で、寝たきりにならない離床を促す環境作りに努めています。今後も残存機能を少しでも長く維持できるように個別リハビリを継続しながら、入居者様の笑顔が溢れるようなレクリエーションをみんなで考えて行きます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立から14年目を迎え、入居者の入れ替わりと共に、今年は介護支援専門員、事務長、看護職員などの交代もあったが、地域の一員として人間の尊厳を持って生きていくとの理念の具現化に努めている。10年以上就労する職員も多く、馴染みの関係が継続され、入居前は外を動き回っていた方が入居当初から落ち着き、顔色もよくなった様子に知人が驚いている。また、レクリエーションの充実し新たに取り組み、風船バレーや塗り絵に消極的だった入居者が徐々に意欲的に取り組む姿に、職員は生活リハビリの重要性を改めて実感している。外部講師を招いての毎月の勉強会や、同業者協議会GHみやわかかの研修会に職員が交代で参加し、職員の意欲や向上心の高揚に配慮している。訪問日は地域の山笠の山車が巡行し、締め込み姿の方々と握手したり記念写真撮影を楽しむ入居者の姿が見られた。今後も運営推進会議の活用や地域ボランティアの協力、関係機関との連携で、安心して暮らせるホームづくりが期待される。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム 田苑**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を玄関、リビングに提示して、申し送り、ミーティング等で実践の有無を確認して、反省点は助言して実践につなげる。	認知症であっても、地域の一員として、人間の尊厳を持って生きていくとの理念を具現化できるように、地域との連携を心がけ、ボランティアの演奏や踊りの訪問、地域の商店との交流が継続されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し総会、親睦会、地域の行事等に参加し交流を深めている。	日頃から地域防災活動や清掃に参加している。訪問日には山笠の巡行があり、締め込み姿の出入りの電気屋さんや大工さんたちと入居者が握手したり、記念写真を撮って喜ぶ姿が見られた。七夕飾りの笹は、毎年米屋さんが好意で準備していただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GHでの健康体操、演奏会、毎月の勉強会等、地域の方にも開放して入居者様と一緒に参加している。地域の方へ認知症の方の理解を深める機会となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での推進委員の意見・助言等、その都度職員に周知して改善を指示してサービス向上に生かしている。	家族代表、民生委員などの適切なメンバーの参加で定期的開催され、議事録は玄関に公表している。入居者の体調不良のため受診の報告が多かったことを参加者から質問されるなど、率直な意見交換の場となっている。	全家族に運営推進会議開催を案内したり、ホーム便りに会議内容を掲載する等、家族と情報の共有しながら、会議のさらなる活用を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者にも運営推進会議に参加していただき、実情を把握していただき、相談や助言・指導等をいただいている。	日頃から地域包括支援センターに入居状況の報告や相談したり、研修参加の案内がある。地域の同業者協議会GHみやわかの役員としても、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の勉強会等で学習する機会を持っており、全職員が理解するように努めている。ベッド柵や手袋使用時は「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書や記録」をご本人・御家族に説明して、承諾をいただいている。職員の手薄な時間帯は玄関を施錠している。	全職員が身体拘束の具体的な事案を理解している。夜間歩き回る入居者の動向をセンサーで察知し、職員が見守りをしている。寂しさから外に出て回っていた入居者を一人にしないことで落ち着かせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内外の勉強会等で学習する機会をもっている。管理者は日々の生活の中で入居者のご様子の変化等に注意を払い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会に参加して学ぶ機会を設けている。入居者で成年後見人制度を利用されている方もおられる。後見人とご家族との仲立ちなど各々の相談に応じ支援できている。	職員研修で権利擁護の制度を理解している。現在、1名の入居者が成年後見制度を利用しているが、後見人と会う機会は少なく、多様化している家族状況などを学ぶ機会になっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時十分に説明を行い了承を得たうえで契約している。又、制度改正がある場合は再度説明して、同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族の要望意見は、管理者、事務長が傾聴し職員で話し合い問題解決に努めている。苦情箱は玄関に設置している。	行事の際は、できるだけ家族にも参加を呼びかけ、意見や要望を伺う機会を持つように努めている。家族から行事には参加できないが写真が欲しいとの要望に、入居者だけが映った写真を提供したり、家族の散歩をさせてほしいや仕事帰りに寝顔だけでも見たいなどの要望に応じている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のミーティング、月1回の勉強会等が出た意見要望は早急に話し合い検討して反映できるように努めている。	毎月の勉強会、毎週のミーティング、毎日の申し送り時に出された職員の提案や意見が運営に反映されている。ミキサー食の方に食べられる豆腐を多めに提供したり、掃除機や乾燥機などが古くなり、新規に購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを図り、個々の職員と折々に面接している。勤務状況等で気が付いた時は職員の思いが話せる環境を作り、職員の働きやすい環境を整備するよう努めるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢性別では差別していない。職員の能力に応じて勤務している。	職員の採用は、職員による紹介がほとんどで、長年就労している職員が多く、離職は少ない。子育て中の職員にはシフトを配慮しているが、60～70歳代の職員も多く、夜勤専門スタッフや昼間のパート職員を採用し、職員の負担軽減に努めている。資格取得を奨励し、介護福祉士に2名の方が合格している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内外の勉強会などに参加して学ぶ機会をもって実践に取り組んでいる。入居者の人権を尊重する為、職員全員で声掛けしなから対応している。	職員の人権研修を継続し、その人らしく笑顔で楽しく暮らすことを目指している。入居者同士のトラブルが無いように職員が間に入っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の自主的な研修参加に配慮している。時間的な調整・支援に加え、資金的にも援助している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	宮若市の同業者でのGHみやわか勉強会・親睦会を毎月開催している為、参加し交流している。意見交換の場となり、サービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初は入居者の状況把握の為、日勤・夜勤の職員を増員して、入居者様とコミュニケーションを多くとり、入居者の要望に対応できるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様・ご家族様に見学に来ていただき、事前に不安や要望を聞き、より良いサービスに繋がるように取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・ご家族様の意向をしっかりと把握し、安心してサービスを受ける事ができるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として尊敬の念をもって信頼関係を構築している。入居者様からの人生の経験で学ぶことも多くあり職員全員で実感している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の気持ちに寄り添い、ご家族様の意向を聞きながら、本人様と良い関係が築き上げられるように努めている。又、ご家族様に出来ることは協力していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との外出や親しい人の訪問等は常に勧めている。	家族が仕事で忙しい入居者に、「様子を見に来た。」と近所の方の訪問がある。家族が同行して馴染みの美容院に毛染めに行く方や、外食や自宅に家族と出かける入居者もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や状況に合わせて孤立しないように、利用者同士が関わり合える環境づくりに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者様・ご家族様に会ったときは状況に応じて様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動・行動・表情を観察し、その中で入居者様の思いや希望・意向等を組み取るように配慮している。ご家族様からも情報や要望をお伺いするようにしている。	日々のケアの中で気付いた点をミーティングで話し合い、意向に沿って全職員が統一したケアを提供できるように検討している。入居前は外を動き回っていた方も、落ち着いて穏やかに生活されている。	介護計画に活用できるように、基本情報やアセスメントシートに気付いた点や日々の生活の中で得た情報の追記や整備を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様、以前の施設、主治医等から情報収集して対処している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	収集した情報を基に一人ひとりが個人のペースで生活できるように介護者全員が情報の共有に努めるよう対処している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやミーティング等が出た意見を検討し、現状にあったケアができるようにしている。	個別ファイルに介護計画を載せ、計画を確認しながら、支援経過を記載している。毎月、全員でモニタリングを行い、計画の変更に繋げている。レクリエーションの充実に新たに取り組み、風船バレーや塗り絵に消極的だった入居者が、徐々に意欲的に取り組む姿に、職員は生活リハビリの重要性を改めて実感している。	今後は、入居者の心身の状況に応じた個別のレクリエーション計画の検討をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様々な気づき等介護記録や申し送りで情報を共有し、常に話し合い実践に繋げている。変化があるときはその都度見直しをしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様の状況の変化、要望等にあつたケアを支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや職員の協力で畑で栽培した野菜の収穫や下ごしらえを行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・ご家族様の希望したかかりつけ医との関係を継続している。月1回の訪問診療、必要に応じて病院受診している。緊急時の主治医との連絡体制もできている。	入居者や家族の希望するかかりつけ医の受診が継続されている。皮膚科や眼科等の専門医の受診は家族の同行が基本であるが、できない時には管理者が同行している。看護職員が医療機関と連携し、受診結果等を家族に報告している。訪問歯科の導入を検討している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師との情報交換を行い、状態変化等の場合は相談し、判断や助言を得ている。又、訪問診療の看護師とも連絡体制ができている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的にも連携して相談・助言・指示をいただいている。家族の要望等を踏まえ、早期退院が苑の方針であり、そのことは病院関係者には理解いただいている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には必ず重度化の対応の指針・DNR・DNIの意見表示の確認書を取り交わしている。重度化した場合は、ご本人・ご家族・主治医・当苑が協議して、ご本人・ご家族の意向を取り組んだ支援に努めている。	整備した重度化や終末期に向けた方針を、入居時に本人や家族に説明している。重度化や終末期には、主治医や家族と話し合い、できるだけホームの生活が継続されるように支援している。ぎりぎりまでホームで過ごし、救急車で医療機関に搬送して、数時間後亡くなられた入居者もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、順次講習会に参加している。苑内の勉強会でも1年に1回は講師から実践指導を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し火災や災害時の対策を立てている。夜間・日中の避難誘導のマニュアルを作成して地域のボランティアも参加した避難誘導通報訓練を年2回実施している。	年に2回、消防署や地域ボランティアの協力を得て入居者と一緒に避難訓練を実施している。車椅子での避難所までの所要時間を測ったり、水害に備えてホーム独自に避難開始のタイミングを決めている。市指定の避難場所が遠いため、利便性のある公共施設を避難所をお願いしている。食料や飲料水を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念に人間としての尊厳の尊重を挙げ職員に周知している。入居者様とは個人情報の取り扱いの受託書類は入居時取り交わしている。従業員も入社時契約書を交わし、個人情報の守秘義務を周知徹底している。	理念に沿って、入居者の尊厳を尊重するケアや接遇に努めている。全居室に洗面台があり、身支度をしたり、化粧をしてリビングに来られるように支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や自己決定がしやすい環境と関係が構築できるよう努力している。自己決定できるよう働きかけは随時行っている。表出困難な利用者様には行動や表情から推し測っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の介護を常に目標にしている。気づき、スローペースを心がけ、動作、言葉の速度、声の高さも心がけ入居者様に合わせるよう指示し実践している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分がお好みの洋服を着ていただいている。複数回、着替えられる方もいらっしゃるが見守っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜や地域の風習の献立等が多い。個々の咀嚼・嚥下状態等により食事の形態を変えている。野菜の収穫や下ごしらえを行っている。入居者様と職員と一緒に楽しく食事を召し上がっている。	ホームの菜園で育てた野菜を入居者と一緒に収穫して、献立に取り入れている。テーブルを3つに分け、入居者と職員と一緒に楽しく食事をしているので、残菜がほとんど無い。日頃はミキサー食の方が行事食の魚のお頭付きを全部食べる姿に職員は驚いている。昼食後、民謡を気持ちよく歌いながらランチョンマットを拭いている入居者の姿があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は1500CCを目標に支援している。主治医からの特別な指示のない方は1500カロリー摂取を目安にしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、おやつ後、職員が見守りしたり、介助して口腔ケアを支援している。入れ歯は毎晩洗浄剤で消毒している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握するため排泄表を活用し排泄誘導をしている。排尿が見られない場合はお腹に力を入れるよう声かけしたり、前かがみになって頂いたりして排尿を促している。	個々の入居者の排泄パターンを把握し、全員、トイレに誘導している。布パンツの方は1名いるが、布パンツで常時失禁がある入居者もあり、パットや紙パンツを併用して排泄の負担感を軽減している。夜間、ポータブルトイレを使用される方もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きを良くするため、体操を行ったり、食物繊維の多い食べ物や水分の摂取を支援している。便秘気味の方には起床時牛乳を摂取していたり、排便困難時は-2日目まで下剤を服用したり、-3日目ではテレミンソフトを挿入したり、個々に応じて対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には3日に1回。特別な場合はその都度対応している。入浴介助は安全を考慮して原則職員2名体制で行っているため、入浴時間帯は決められているものの利用者様にご理解いただいている状況です。	職員2名で、1日3名を基本に入浴を支援しているが、失禁や入浴日以外にも希望があれば、柔軟に対応している。入浴を拒否される場合は、声かけを工夫したり、曜日の変更、足浴の実施等で対応できている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様には、自由に過ごしていただいています。居室で過ごされるときは、温度・湿度管理に気を配り、気持ち良く休めるように努めています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者・看護師は利用者の処方薬の効用・副作用について理解し、職員に説明している。服用後は症状の変化などないか観察している。服薬介助時は本人の確認を行い、お名前を声に出してお口の中まで介助し、飲み込まれるまで支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、洗濯干し、草取り、野菜の収穫等行っている。カラオケ、テレビ鑑賞、踊り、トランプ、風船遊び、庭の散歩、ドライブ、月2回の体操講師による運動等各自興味のあることに参加されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望時出来るだけ、外での散歩を心がけている。花見、ドライブ、地域での行事はご家族・ボランティアの協力できている。ご家族との外出・外泊はできている。	車椅子使用の入居者も多く、家族やボランティアの協力で外出したり、近くの神社まで散歩をかねて藤の花を見学したり、季節ごとに花見に出かけたり、演奏会に出かけている。家族と外出される入居者もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、お小遣い程度のお金でもご本人・ご家族に説明を行い、同意のもとで施設でお預かりしています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に了解している方には電話をしてお話していただいている。家族や親戚の方には手紙や電話をお願いしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の視界に入る場所に季節を感じられる花や置物を置いている。入居者様が居心地よく過ごせる空間を配慮しながら工夫していくように努めている。	玄関を入ると、ソファが2つ置かれ、入居者の願いが書かれ七夕飾りが飾られ、リビングの窓は今年もゴーヤが爽やかな緑のカーテンを作っている。トイレの横にはお花の写真を集めて掲示し、各所に季節の花が飾られて、自然に笑顔になり、心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、リビング、庭にベンチ等を配置しており、各自が好みの場所で気の合う利用者様と楽しく過ごせるように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や寝具、日用品、アルバム等を持ち込まれ居心地よく過ごされている。入居者様の状況に応じて、その都度工夫しながら居心地よく過ごせるように努めている。	居室の窓からは、畑や田んぼ、穏やかな山々の風景が広がり、季節を感じられる。整頓された部屋に入居者の身体状況にあったベッドが置かれ、好みの寝具が持ち込まれている。洗面台には使い慣れた櫛や化粧品を置き、居心地よく過ごされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の個別に対応した安全な環境づくりに努めている。入居者様の残存機能を生かせるように常に工夫している。		